

## 令和元年度 第3回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録

日時：令和元年10月28日（月）18：30～20：30

会場：練馬区立区民・産業プラザ（ココネリ）研修室1

### 1. 事務局長挨拶

事務局長：今年は台風の影響で多くの河川が氾濫し、甚大なる被害が出ています。練馬区社協では生活サポートセンター職員が千葉の方に災害派遣に行っておりました。現在、かたくり福祉作業所職員が栃木県の佐野市の方へ災害派遣で行っております。災害派遣の期間が延長されるようでしたら練馬区社協の方でも引き続き災害派遣をしていきます。被災地の皆様へのお見舞いの言葉を申し上げます。本題に入りますが、第5次地域福祉活動計画（以下、第5次計画）の案について、8月末にまたご意見を頂きまして、そのあと事務局内部で精力的に整えていく作業させて頂いて今日にはなんとか委員のみなさんにお示しできる少し体裁になってきたと思っております。改めて変更点を中心に説明させて頂き、ご意見をいただきまして、概ねご了承をいただけるようでしたら説明会に入っていけたらと思います。説明をさせていただきますので、忌憚ないご意見をいただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### 2. 配布資料確認

次第の中身に入る前に民生・児童委員代表会長に6月から策定推進評価委員に委嘱させていただいておまして、ご予約が合わず今日が初めてのご参加となります。一言後挨拶をいただけたらと思います。

委員：一回目、二回目と行事と重なってしまい民生・児童委員の活動を夜もやっているのかと言われることもあるかもしれませんが、たまたま、夜間に研修が入り、欠席してしまい申し訳ありませんでした。ちょっと乗り遅れているのでなかなか意見は言いにくいところがありますが、先日、活動計画において300字でコメントを求められました。中々参加できていないので、難しいところですが、一生懸命、書きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長：それでは次第の3番に入ります。委員のほうからご説明よろしくお願いいたします。

### 3. 練馬区地域福祉計画 ずっと住みたい やさしいまちプラン

委員：今、区がつくっております、練馬区地域福祉計画について説明させていただきます。資料がありませんので口頭での説明になりますが、よろしくお願いいたします。現行であります、練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画につきましては、今年度で計画が終了という事になっております。そのため、今年度中に練馬区地域福祉計画を策定していき、来年度に向けて行っていきます。この計画の位置づけですが、練馬区には第2次みどりの風吹くまちビジョンに基づき、個別計画の位置づけ、それから社会福祉法の市区町村地域福祉計画に基づく計画というものにもなります。また、今回は成年後見制度利用促進法第23条に規定されてある成年後見制度利用促進基本計画にも位置づけさせていきたいと考えています。練馬区福祉のまちづくり推進条例の第7条に規定されます。福祉のまちづくり推進に関する計画ともしていきたいと思っております。そういった大筋の位置づけの中で、今まで共に支え合う地域社会の構築というなかたちで行ってまいりましたが、それをさらに進化した形で区民との協働の更なる推進との形で含めてやっていきたいと思っております。現在の進捗状況ですが、スケジュール的には今年の12月に、素案を公表させて頂き、皆様からご意見や区議会の方からご意見を頂いて、今年度中に法案にする予定になっています。具体的にこの地域福祉計画につきまして、今、委員長からもお話があった通り、社協の地域福祉活動計画との両輪との形で連携を図っていきたくと考えています。また、東京都の地域福祉支援計画との連携も図っていきたくと考えています。今日は、社協の会議になりますので、今回の計画の中で社協と一緒にやっていきたいところについてご説明していきます。成年後見制度利用促進基本計画にも位置づけの中で社協には、国の計画に基づく中核機関の役割を担って頂きたいと考えています。今、権利擁護センターとして成年後見制度の推進機関として担って頂いております。

さらに国の計画に基づく中核機関としてやって頂きたいと思っています。成年後見制度利用促進にありましては色々と課題もあり、その中で後見人候補者の選択肢を増やすことも大きな課題となっていて来年度から法人後見という形をとって頂きたいと社協と話を進めているところです。そういった意味で成年後見制度利用促進計画のところについては、かなり社協と共にとという形で考えています。現在行われている権利擁護そのものについての底上げを図りながら成年後見制度利用促進をしていきたいと考えております。現在 1,300 人ぐらい、成年後見制度の利用者が区の中にはいます。今後、超高齢化が進み、利用者数も増えていくだろうと思います。成年後見制度利用促進につきましては国の方が平成 28 年に法律化しましたけど、そちらに基づいた形でさらに進めていき、区の中の、権利擁護、個別的な人権の部分にも推進を図っていききたいと思っております。また、複合的な課題とか福祉分野の共通問題 8050 問題やダブルケア問題とか、色々あると考えています。そういったところは、生活サポートセンターを社協の方でやって頂いており、一緒にやっていきたいと思っています。また、区民とのさらなる協働という形で、今隣りにいますが、協働推進課長とともに区民の方々と一緒に力を合わせて地域福祉の推進もしていきたいと考えています。また、社会参加の基盤の充実ということでバリアフリーをハードもソフト面も充実していけるようにしていきたいと思っています。今年中に素案をつくり上げまして、皆さまにご報告できれば、皆様のご意見を頂いて今年度中に法案にしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

#### 4. 第5次地域福祉活動計画について【事前配布資料・資料1】

変更点、協議いただきたい部分について説明

図・イラスト、会長挨拶に加え完結な計画の全体像記載、2章3章の順序の検討

ユニバーサルデザインに基づいたUDフォントの使用

P20～のイラストでネリーズ・キーパーソン・地域福祉コーディネーターのイメージをイラスト化  
委員メッセージをコラムとして各所に分散して記載。

前回8月末の策定委員会ではじめて活動計画(案)をお示しさせて頂きました。そこで頂いたご意見をもとに社協内部でも意見交換等をし、少し構成を変更した点や前回入っていなかった図やイラスト等も加わっていますので、そういった変更点を中心に説明させていただきます。はじめについての部分は変更なく、右側の会長の文章が載っておりますが、第5次計画の策定にあたって簡潔にその計画の全体像をお示しする内容になっています。そういった内容のタイトルにしていきたいと思っています。その下に第5次計画の概要として全体の骨組みを表すような内容をお示ししています。文言について細かい修正は、今後していきますのでご了承ください。また、イラストやイメージ図などより良いものにしていけたらと思いますので今後の変更等につきましてはご理解いただけたらと思います。目次の前にはじめになど前段になるものがあります。第1章は注釈について変更しておりますが、本文の変更点はありません。変わった点につきましては2章、3章について変更しています。以前は一つの章になっておりましたが、内容を分割して記載させていただいています。ただ、2章と3章の順番については検討した方がいいのではないかとの意見も執筆の委員よりありました。第2章の最後の部分の7ページを見ていただけると、第4次計画の振り返りをした上で第5次計画に向けて論点を整理している部分があります。この5次地域福祉活動計画に向けてまとめた後で、第4章の文にそのまま入っていった方が分かりやすいのではないかとこのところ2章と3章をすべて入れ替えてみてはどうかと考えています。

第4章の各柱や取り組み項目については内容を大きく変更した箇所はありません。取り組み内容につきましては重なっている部分を削ったり少し内容を入れ替えたり、整理するなどしています。体系図の載っている13ページをご覧ください。前回も一案として提示しておりますがそこから第5次計画の体系図について変更しております。ひとりの不幸も見逃さないつながりのある地域をつくる、という理念を基に一人ひとりの気づきや、互いの育ち合いを大切にするという視点を大事にしながら、この二つの柱が相互に作用しながら計画を推進していく、また、その推進にはネリーズのみなさんだったり、そういった考え方が基盤としてあり

ながら、地域の個別の課題に気づき何とかしたいと考え解決につなげようとするキーパーソンと呼ばれる地域のみなさんを、地域福祉コーディネーターがサポートしながら地域づくりを進めていくという第5次計画の大きな方針を示しています。続いて16ページをご覧ください。大きな方針をもう少し具体化して目指すまちの姿を示させていただいています。ネリーズ、キーパーソン、地域福祉コーディネーターなど、地域の住民、ボランティア、法人ネットや民生児童委員など様々な連携とつつパートナーシップを確かなものとし取り組んでいるものをイメージとしてお示ししております。ここまでが計画本文の前置きのような位置づけです。次の17ページから、計画の本文に入ります。柱1の住民主体の地域づくりに関する内容については大きく変更はありませんが、見ていただきたいのが、20ページからの先程お伝えした協働のイメージについてイラストを使って説明させていただきました。手書きでそれぞれの方の思いだったり表情が伝わるようにお示ししております。3つ目の事例は文章中でご了解いただいた内容のイラストになります。見ての感想や意見等いただければと思います。24ページの分野を越えたネットワークの構築について、文字についてUD文字（ユニバサールデザイン）になっており、こういったフォントを使って印刷してはどうかと考えています。28ページの計画の柱2については大きな変更点はありません。下の図について複合的な課題に関係機関が連携して対応することで本人が安心できることを示した図になりますが、改めて書き直す予定です。30ページの下部にイメージ図について載せております。前回から図の内容を変更しており、この図については内部でも悩むところがあり、ご意見をいただけたらと思います。

35ページからの取り組み項目（2）について大きな変更はありませんが、その人らしい地域生活を支えるといった中核機関を担っていく、法人後見を開始するという内容について前回より具体的に記載しています。その人らしい地域生活を支えるということでは37ページから制度だけでは支えきれない課題に対してコーディネーターやネリーズ、キーパーソンの力が必要であるという形でまとめている。39ページから前回にはお示しできなかった第5次計画をどのように評価するかということを示したものになります。40ページの図にあるように、委員会の取り組みを元に計画推進を進めていく上で、ネリーズ懇談会やシンポジウム、意見交換、策定推進委員会を通じて様々な視点を持った計画の推進を取り組んでいきます。41、42ページの取り組み表についてより詳しく確認できるようにしておりこれを基に進捗状況や評価を出来るようにしていきます。もう一度目次を見ていただいて、最後の資料についてはこれから進めていくものを記載するものになりますので今回はまだ配布はしていません。資料1の第5次計画の策定につて策定委員のみなさんから頂いたコラムについて計画の中に散りばめる形を予定しています。

委員長：原案ですので、章立ての中身や順番、イラスト等について、わかりやすさなどみなさんからご意見を頂けたらと思います。UDフォントは見やすいです。ご感想も含めて何かご意見がありましたらお願いします。

委員：30ページの本人の望む生活と働き方の実現の図ですけど、右から左へのイメージだと思うのですが、なんとなく彼らが働くためにまず何が必要か、まず健康だったり、安定した生活を過ごすことから入らないといけないところがあるので、この部分の図だと生活の部分が少ないようなところだけ気になった。健康のところは生活面での支援ということよろしいのでしょうか。グループホームとかそういう考えはそこには盛り込まない感じですか。

職員：細かくは書かないです。

委員：大雑把に分かる感じですね。

委員：前回の時に言えなかったが、第4次計画で小地域福祉活動のことがテーマに計画に入っていたのですが、それを推進した結果が第5次計画ということで、小地域福祉活動が実際どうだったか。前回の会議のときに関わった職員の方がちょっとコメントをくれたのですが、あれを聞いていると小地域福祉活動している本人たちがよくわかってなかったというイメージがあったのですが、会議が終わった後、小地域福祉活動について総括など十分に触れてないのかなったと思って第5次計画ではどうなるのかなと思ってメールをした

が、エリアはどうだかわかりませんが日常の生活に密着してやっていく理解でいいのかと考えました。あと図が新しくイラストが入ったと思いますが、今回の説明で言われていた20ページからのイラストについて、キーパーソンとネリーズと地域福祉コーディネーターの協働の事例が、おもしろいと思いましたが、この図だと地域福祉コーディネーターとネリーズとキーパーソンの三者がどのようなかわりがある、どういう役割をしているかわからない。よくよく見るとわかるが、事例1で私が思ったのがキーパーソンが気づいてコーディネーターにつないでという関わり方などの説明があるとわかりやすいのではないか。2の事例では、このように書いてあると三者の関係が分かっていい。3つの事例について何か注釈をいれてあった方がわかりやすいのではないか。ここが小地域福祉活動の肝になるのではないかと思う。部署、委員会の取り組みについて内容が書いてあるが、これを記載したチラシか何かがあると、区民が社協が何をやっている、何を考えているのか分かるのではないか。ネリーズかるたやネリーズ通信の文章について、区民が見たらなんだろうという疑問につながり社協のチラシとしてあればより浸透していくのではないかと思います。

職員：イラストかわいく書けていると思いませんか。このイラストがあるととっても良いと思って職員が書きました。事例を分かりやすくイラストで表そうとしていることがいいのではないかと思います。キーパーソンとネリーズと地域福祉コーディネーターの注釈はイラストでわかってもらえたのであえて必要ないのではないのでしょうか。キャプションを付けることについてご意見いただきありがとうございます。22ページについて位置関係が違うので、分かりやすいように変更できたらと思っている。28ページの下のイラストについて相馬の方で書きました。

委員：この図はとてもわかりやすかった。ビジネスをやっている人からするとこういう図があると分かりやすい。ポンチ絵みたいなのがあって良いです。生活と就労のどちらも大事だと分かるような両天秤の図がいいのではないのでしょうか。

職員：レインボーワークと統合した際に就労も大事なのですが、生活を基盤が先だろうということで、その先に就労があるというイメージで、健康や社会参加、余暇活動などの生活の上に就職があり、また就職も色々な形があるのではないかと思います、このイラストにしています。

委員：だが、どちらも大事であるという両天秤の方がイメージとしていいのではないかと感じた。

職員：ここに載せる図としては生活が基盤というイメージがいいと思った。ぜひ委員の皆さまから意見をいただきたい。

委員：図について、生活が一番かと思っているので、生活が基盤かなと思っています。先に就職する人もいるけど続かなくて辞めてしまうことが多い、また、続かないので親からお金をもらって、使いすぎてしまって離職することもある。一般就労をして実家で暮らしている人で、本人にお小遣いを渡してお小遣い帳をつけていて、親から使い過ぎと指摘されるケースでは仕事にも影響が出ているのが実態です。昼夜逆転してしまい生活リズムが整わない人もいますし、まずは規則正しい生活を送らなければいけない、食事や洗濯など自分で適切にこなせるようにならないといけない。ここが安定してから就職を視野に入れて考えられると思いますが、もちろん色々な意見があると思います。

委員長：この図が平面図なので分かりにくいのではないかと。基盤について、本当は立体的なイメージになると思うがどうすると分かりやすいだろうか。

職員：両天秤ということについてはみなさんどうでしょうか。

委員：少なくとも生活が基盤という文章に合わせるのであれば、3Dっぽく就労は2階部分にあるような図になればと思います。私自身は働くことは生活の一部であるということについては納得がいく。ただ事業として、一般的に就労支援というものに寄ってしまっている。就労も雇用—や働くということになりがち。働くという意味には、よく言われるが、傍を楽にする意味があるので、その人が存在するという自体に意味があり、多様な働き方がある。その割にはどこかに雇用させるということ優先させてしまいがちなので、この図でそういった意図が示せればと思う。イラストについて先程の委員の意見が非常にいいとされていて、タイトルが事例1、2、3になっているのでそれぞれの事例に役割をキャッチフレーズ的にタイトルを付け

るといいのではないのでしょうか。

職員：例えば各事例にタイトルを入れれば、キャプションを入れなくてもいいということでしょうか。

委員長：それは少しご検討ください。

職員：小地域福祉についてですが、第3次計画、第4次計画と小地域福祉活動計画について話をしてきたかと思えます。第3次計画では顔の見える範囲でやっていかないと地域課題を住民の皆さまと共有できない、地域福祉コーディネーターが地域にでてそれを共有していくのがいいのではないかと。第4次計画ではネリーズというそれを発信していく住民のみなさんがいてやっていこうということによってやってきました。前回の策定委員会で話をしてもらった職員はわかっていなかったのではなく、実際地域の中で出てやってみると、活動計画に書いてあるようには上手くいかない。人口3万人規模でやっていくことだけではない、それぞれが持つエリアが違うので、そこから出てくる声に従って一緒に動いていく方法もある。委員のひとりには子育て部会などもやっているが、マップをつくって横のつながりを一緒につくっている。小地域福祉活動推進という言葉はなくしていいのではないかと感じた。ある程度の福祉事務所のエリアを定めてやるという説明でも境界はゆるやかな点線で示している。エリアに線が引けないということもあり、そこは委員のいうとおり、これが地域に密着してやっていくということではないかということによって文章にしている。

委員長：2章、3章は入れ替わる話がありましたが。

職員：順番がこのままではなく逆にした方がいいのではと先程説明した。

委員長：2章を3章に、3章を2章にとということ。

職員：民生・児童委員協議会から見ると地域福祉コーディネーターの動きが見えない、個々に民生委員と地域福祉コーディネーターがつながっているのは分かるが、民協に地域福祉コーディネーターが出向いて話をすることで民生委員からの相談を受けるようになり、広がりが出てきた。委員からご指摘いただいたことから、地域における社会福祉法人と民生委員がつながったということもあり、図を三角形に示した。大都会の練馬であればシステムをつくって網の目のようにしていかないといけないと思いきのような形にしている。

委員：全くその通りだと思います。練馬は4か所に分かれていますので、参加してくれることで地域福祉コーディネーターがそこにいることは確認できる。その地域の民協に顔を出して欲しいということで顔を覚えてもらえるようにしていけると、顔も見やすくなって相談もしやすくなっていくのかと思います。東京モデルについてもしっかりカテゴライズしているかと思います。

委員長：委員のコラムについてここではないのではと思う。

委員：イラストがとてもよく図が平面なものが多いので、他のイメージ図もカラーだとわかりやすいのではないかと思います。予算の兼ね合いもあるので難しいかもしれないが、一番大事な箇所をカラーにできるか。

委員長：今回も概要版はカラーで刷るのですか。

職員：そうです。

委員：前回の概要版のようなものだったらわかりやすく良いと思う。

委員：第5次計画には理念があって、目標があって、計画があって、ある程度、第5次計画ということであれば体裁を整えたものでないといけないと思います。読んでいる時は具体的にどんなアクションを起こすのかつながってこない。読んでいてキーパーソンやネリーズというものが何なのか分からないと先に進まない。概要版についてはネリーズやキーパーソンが説明を受ける人がわかるものになれば、それでいいと思います。

委員長：28ページについて計画の柱2について、社協の相談事業のことだと思うが、社協が様々な相談にのってくれるということが、このままだとちょっと分かりづらいのではないかと。大事なところだと思うので副題みたいのを付けてみては。

職員：例えばどのような副題があるとか。

委員長：例えば、相談事業の充実とか分かりやすい言葉にしたり、法人後見についてばっと見て社協は法人後見をするということが全部読まないと分からないというのが気になるので一般の人が読むものと考えたら、最後まで読まなくてもわかるようにした方がいいのではないかと。タイトルはすごくいいと思うが、漠然とし

過ぎている。若い人は分かるかもしれないが。

職員：柱の2の方が少し分かりにくい。

委員長：柱1については元々漠然としたものだろう。2についてはかなり具体的にはっきりしたことが書いてあるので、はっきり書いた方が分かりやすい。はざまの支援についても、分かる人は分かるかもしれないが少し分かりにくい。

委員：41、42ページが各部署でどのようにやっていくのが箇条書きになっていて分かるので、どのようにやっていくのがこの表を使って各取り組み項目について当てはめられるとわかりやすのではないかと。相談であれば42ページのまるごと認め合う仕組みの構築、既存の支援では対応できない包括的な相談支援など記載がある。28ページの下に42ページの表、右端部分の取り組み内容を記載しておくのと具体的にどのように行うのかわかる。31ページの空いているスペースにも取り組み表を入れてもわかりやすのではないかと。

委員長：41、42ページは確かに具体的に書いてある。

職員：委員のイメージは切り取って表を入れていくということか。

委員：その部分だけを切り取ってここにいれるといいと思う。

職員：今のアイデアは一つかと思えます。計画の柱2については、以前、副題をつけていたが分かりにくいとのことで外した経緯があります。難しい言葉を入れるというのも考えていたが、委員の言うように何をするかということを表で入れるというのも良いと思う。

職員：それぞれ当てはまる場所に表を入れて、最後の評価のところにもまとめた表を入れるということが良いだろうか。

委員長：何よりも、社協が何をしているか、ということが一番に分かりたい。言葉をやさしくして分かりやすくして欲しいという思いがある。はざまの支援など分かりにくい言葉がある。

職員：事務局長からも言われたが第4次計画でも概要版が一番よく分かったという意見だった。それぞれの立場で計画本文を考えると難しいので、概要版で区民の方に向けた内容になるように考えて行けたらと思います。

職員：はざまの支援という言葉も概要版で分かりやすくなるか。

職員：表を入れ込むというのは分かりやすいと思う。その方向で修正する。

委員：計画本文は分厚くなってもいいと思うが、概要版について何ページぐらいで考えているのか。できればルビを振って欲しい。絵本のように言い過ぎだが、くだけすぎても本当にやりたいことがぼやけてしまうかもしれないので、文章としてはしっかり書いた上で、わかりやすいようにして欲しい。それぞれ具体的に書いて欲しいという思いはあるが、誰に向けてどういう意図で書くかというのははっきりさせて作成した方がいい。概要版については誰でもわかるようにつくっていただけたらと思います。難しいとは思いますが、例えばイラストをもっと使うと分かりやすくなると思います。

委員長：完成版はいつ頃出来るか

職員：今回の意見で直したものを、理事会に提出し、11月29日の理事会前に委員のみなさんにはお送り出来ると思う。それをもって説明会やパブコメに進む。その意見を反映させて2月の策定員会に資料を提出することになると思う。

委員長：もう一度意見を言う場があるということですね。

職員：11月29日の理事会用資料についてご意見いただければ、説明会・パブコメに反映できる。

委員長：他に何か今のうちに修正することはあるか。

委員：修正することではないがこの間、東京の会合に出席した。練馬は最先端を行っているなと思った。練馬は推進評価委員会があって新しいところに挑戦して一歩先に進んでいるように感じた。未知の道を進むことは難しいことだが、へこたれないで進むところが練馬の先端たる所以だと思いますので一緒に頑張りましょう。

委員長：励ましの言葉でした。地域福祉活動計画の原案については、締め切りでよろしいでしょうか。他に

ご意見等ありましたら事務局の方へお願いします。これをもって説明会に行くということで、その予定について説明をお願いします。

## 5. 第5次地域福祉活動計画説明会について【資料2・3】

職員：資料2・3説明、説明会参加委員の確認。

委員長：参加する委員は何か発言はするのですか。

職員：はい。先程、説明しましたが計画の期待や感想についてお話しして頂けたらと思います。

## 6. ネリーズ関係報告【資料4・5】

委員長：ネリーズ関係について何かご質問等がありますでしょうか。

職員：10月3日の石神井地区のネリーズ懇談会に参加させていただきました。ネリーズかるたをみなさんで行いました。最初はみなさん、いかに早く札を取るかに意識されていましたが、次第にかるたの絵の意味について話をすることができました。それは、ネリーズかるたの意図するところで、それを現場でやりながら、初めて見る事ができたことがいい景色としてありましたし、一つひとつの札を取るごとに、この札の絵の意味するところは何だろうという答えあわせと同時に、自分もこういった経験をしたことやこの絵を書いた人がこういうシーンでイメージしたのかという話ができ、とても広がりのある話ができたと感じます。このネリーズ懇談会には必ず、ネリーズについて知らない方も参加され、懇談会の中で自分のやっていることがネリーズの活動だと気づく参加者がいました。ネリーズかるたに関しては、やってみて思ったのですが、札が仮に増えても絵を通して色々とテーマが膨らんできたり、広がってきたりするのかなと思う。よくカードゲームにある拡張版などを作成してもまた、色々な話を広げていけるのかなと思いましたし、今日のメインの話にもありましたが、第5次計画に向けての自分たちの役割は何かということもネリーズかるたで気づけたり、再確認できるような場にもなっているのかなと印象に残りました。地道な活動だと思いますが、今後も一つひとつ続けていくこと参加する地域の方たちに自分のやっている役割がわかっているきっかけづくりになるのかなと感じた報告です。

委員長：嬉しい報告をありがとうございます。みなさんの方から報告等がありますか。

委員：今のご報告が大変貴重で、とても良い報告だったと思います。今日も2つネリーズかるたの報告書が出ていますが、こういうのをすごく蓄積するのは大事かと思っています。ネリーズかるたをやってみて絵札の絵をみながらこれはどういうことだろうかヴィジュアル的に理解することができるツールでもありますので、こういうのは是非、動画なども活用をして、もっと上手にピーアールしていくといいかな、と思いますので、ご検討いただけたらと思います。

委員長：どうしても紙媒体が多く、SNSなどの媒体の活用はイマイチですね。

## 7. まとめ

副委員長：つくりっこでやったのもそうですが、学習防災センターで行った懇談会に参加させていただいて、台風も近づいていたので防災センターの所長の話も真剣に話が聞けて、私が印象に残っているのは、阪神淡路の震災時に起きた小豆島の話がとても良かった。家が潰れてしまったが、亡くなる人がゼロだった。それはやっぱり、お互い顔の見える関係が出来ていて、日頃からどこで寝ているのかまで知っていて早く助けられたからでした。亡くなる人がいなかったという話を聞いて、つながっていることが大事だって事が身にしみる話だった。それで、参加者の方たちからも、どんな風につながっているかということ、本当に単純な話ですけど、挨拶をするように心かけている方もいました。ちょっと知らない人に挨拶することということでした。は照れてしまうことですが、それをやっていると関係が変わってきたお話もありまして、とてもいい会だったと思いました。つくりっこの家で行った懇談会では、メンバーも参加しました。メンバーからの話

で、かなり高いところ飛び降りて、普通だったら亡くなっていたのではないかと思いますので、足を怪我しただけで大丈夫だったそうです。長い入院生活の後、退院をして、今、地域で幸せに暮らしている。地域で暮らす精神障害のある寿人がどんな人なのか、気になっていた方にも直接わかってもらえて良かった、とそのメンバーが話していたことがとても嬉しかった。色んな多様な人たちがネリーズ懇談会で出会える機会になるといいなと思うので、そういった仕組みづくりをどんどんつくっていけると良いのではないかと思います。

今日のまとめですが、委員のみなさんが話していましたが、練馬区は人材の宝庫だと思います。昔から地域で活動してきている方が多いなと思います。先程の計画やイラストやイメージ図を見て、ネリーズをやろうと思う人はいないかなと思う。自分がやっていることがネリーズだったと気づいたという石神井の報告であったように、やる方は自分で気づいてその場でやる地域なのかと思うので、活動計画の見せ方は大事だと思います。元委員長が、地域福祉の主人公は地域住民だ、地域が力をつけていかないといけない、と仰っていたことが思い浮かびました。今回は、第5次計画については地域住民が中心になって作った初めての活動計画なので、とても意味のある計画だと思いますので、第4次計画の時に期待のところでネリーズの人たちが参加して良かったなと思える計画になればと思います。それはできているのかな、と思いますので、今後もそのような計画になればと思います。

委員長：懇談会も参加される人数は多くないかもしれませんが新たな人が来てくれて新たな気づきにもなって、これからも地道にやっていると良いのかと思います。

## 8. その他

職員：11月の区報に説明会のご案内が載ります。さらに、11月発行の社協だよりも説明会のご案内が載ります。直前でも構いませんので参加できる方はご連絡ください。確認になりますが、この場で頂いた意見を少し反映させて11月29日の理事会用に修正して、理事会に出した原稿で説明会は行わないといけないかと思えます。説明会で意見を頂いたり、パブリックコメントも頂きます。みなさんには、理事会版を送らせて頂いて年内にまでにご意見を頂けたらと思います。2月に行う策定評価委員会の原稿には、頂いたご意見を反映することができるかと思えます。11月に入ったらお送りする理事会版の原稿をお楽しみにして頂いて、修正のご意見を年内までにどんどん頂けたらと思います。

委員：最後に失礼します。今日、被害者の相談を受けたのですが、この計画の中にあるイラストとそっくりでした。不安を持っていた人に社協の支援の話をして、社協に相談することを勧めたところ、「光がみえた」とおっしゃっていました。社協の働きは、区民にとっても、特に孤立している人たちの光になっている。社協を全く知らなかった、とその人は言っていました。孤立していたからだと思いますが、私たちが伝えていく責任があると思えました。練馬区社協は最先端と言われる通りだと思いますので、一緒に頑張っていきたいと思えますのでよろしくお願いします。

## 9. 次回の日程について

日時：令和2年2月17日（月）18：30～

場所：区役所本庁舎地下多目的

以上